

宝寿の風

発行者
宝寿院住職
田辺信雄
TEL.62-5739

（いぬこやう）

宝寿院住職 田辺信雄

檀家のみなさまには、日頃より宝寿院ならびに宗門の護持発展のために、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、今年は東日本大震災から六年目になります。想像を絶する未曾有の大津波が襲い、多くの方々が亡くなられたことは記憶に新しいところです。

今年は何回忌ということもあり、マスクミで大きく報じられました。大切な家族を亡くされた方々が、あの日以来悲しみが潰えることなく、つらい日々をおくっていることを改めて思い知らされました。

仏教の教えに「生死事大」「無常迅速」という言葉があります。私たちとて、何時災難に遭うかも分かりません。だからこそ今日一日を悔いの無いように大切に生きなければならぬということです。
亡くなられた方々のご冥福を改めてお祈り申し上げます。

合掌

宝寿院に副住職就任

昨年の十月に、宝寿院住職の次女絢子の夫として婿養子を迎えました。名前は秀法（旧姓閑野）と言います。

秀法は、埼玉県大里郡寄居町の少林寺の次男で、大本山総持寺で五年間修行を積みました。

現在は宝寿院の副住職ですが、ゆくゆくは宝寿院の後継者となる予定です。

二人ともまだまだ若輩ですので、今後、檀家の皆さまには何かとお世話になることと思ひます。

ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひします。



瑞雲



墓地の北側に築山庭園を造成中

前号の寺だよりもお知らせいたしました。が、昨年、宝寿院墓地北側にありました用水路を暗渠化し、水田を埋め立てて築山を造成いたしました。

併せて、道路に接する東側部分には駐車場を舗装整備しましたので、駐車場はいつでもご利用いただける状態になりました。

築山につきましては、今後、花木等を植栽するなどして、徐々に整備していきたいと考えています。

完成しますと、墓地と一体化した寺の境内地北側が、近隣のお寺にはないような花いっぱい築山庭園になる予定です。

全面的な完成には、なお約二〜三年程の年月が必要だと思えますが、完成の暁には、墓地から築山庭園を望むことができ、また、築山からは墓地を含めた境内の全景が一望できるようになります。

お盆やお彼岸の時は勿論ですが、故人の命日等にお墓詣りをした折り、また散歩の途中に立ち寄るなど楽しみも増えることと思えます。

完成まで今しばらくお待ちください。

摩訶不思議なおはなし 第三話

私がまだ高校生の頃のことですが、今でも良く覚えています。当時私は、庫裡（母屋）東の六畳ほどのプレハブ小屋を勉強部屋兼寝室として利用していました。

ある日の夜十一時頃、そろそろ寝ようとしていたところ、小屋の方に向かってくる足音がはっきり聞こえました。一瞬、こんな時間に誰なんだろうと思いましたが、その足音はどんどん入り口の方へ向かってきます。その音はゴム草履を履いて歩いた時に草履とかがとが当たって出るような音で、ピタッピタッという音です。

とても怖かったのですが、思い切って戸を開け、「だれっ」と叫びましたが誰もいません。

外は暗闇で何も見えず足音も止まりましたが、戸を閉めると、また足音が聞こえ、入り口の前を曲がり左の方へ向かって行きました。さすがに絶えきれなくなり、両親を呼んできましたが、「だれもないよ」と言われました。それを聞いてちよっと気が楽になり、その日はそのまま寝ました。次ぐ日の朝早く人が来ました。

実は私も、その足音には聞き覚えがあり、きつと〇〇さんが亡くなったことを知らせ来たんだらうと思って耳をすましていました。案の定、その通りでした。

住職体験談

平成二十九年年回表

一周忌	平成二十八年
三回忌	平成二十七年
七回忌	平成二十三年
十三回忌	平成十七年
十七回忌	平成十三年
二十三回忌	平成七年
二十五回忌	平成五年
二十七回忌	平成三年
三十三回忌	昭和五十九年
三十七回忌	昭和五十六年
四十三回忌	昭和五十年
四十七回忌	昭和四十六年
五十回忌	昭和四十三年
百回忌	大正七年

※法要の申し込みはお早めにお願ひします

おくやみ

昨年の四月四日に、当宝寿院の檀徒総代長、護持会長を永い間お勤めいただきました**坂本敏明氏**が、八十八歳を一期として永眠されました。

坂本氏は温厚なお人柄で、地域からの信頼も大変あつく、檀家さんのまとめ役として良くその任を全うされ、宝寿院の護持・発展に尽くしてこられました。

また、在任中には、当院歴代住職の墓所造営を初めとして、当院の基盤整備にもご尽力いただきました。生前のご功績に対しまして、ここに改めて感謝の意を表するとともに、心よりご冥福をお祈り致します。

昨年の六月三日に、当宝寿院の檀徒総代をお勤めいただきました**峯崎英光氏**が、七十七歳を一期として永眠されました。

峯崎氏は信仰心があつく、先祖を大変敬つておられる方でした。また、気さくなお人柄で、住職にとつては良き相談相手でもありました。生前に賜りましたご厚情に対しまして、ここに改めて感謝の意を表するとともに、心よりご冥福をお祈り致します。

合掌

平成二十八年度 寄進者ご芳名

昨年度中に檀信徒の方々より、ありがたいご寄進を頂きましたのでご紹介致します。

- 一、テント一張 坂本實男様
 - 一、テント一張 服部和悦様
 - 一、本堂用椅子十五脚 峯崎 寛様
- テントは今までにもありましたが、この度ご寄進いただきましたのは二間×三間の大型のものです。行事を行う際には大変重宝します。また、椅子は本堂で法事等を行う際に正座ができない人等にご利用いただけるものです。ありがとうございました。

宝寿院檀徒総代

- 総代長 坂本新一
- 副総代長 小沼唯二 服部和悦
- 会計 三吉靖典
- 総代 清水康司 坂本勝三
- 坂本昌司 坂本陽
- 峯崎 寛 襟川栄太郎
- 根岸浅雄 峯崎平弥

温故知新⑦ 寄木戸の方言

今ではもうほとんど使われなくなってしまう言葉がたくさんあります。一方で方言とは知らず使っている言葉もあります。

寄木戸地区で、かつて日常的に使われていた言葉や、今でも使っている言葉の中には、同じ大泉町なのに、小泉や他の地区とはまったく違うものさえあります。

また、同じ群馬県でも離れた地域や他県で使われている方言もあるようです。

ですから厳密には違うのかも知れませんが、寄木戸の方言とも思われる、昔使われていた懐かしい言葉も含め幾つかあげてみました。

- いぼる 威張る
- いっからかん いい加減
- いっける 乗せる
- いんごっぱち 頑固者
- うच्चやる すてる
- うまげ 美味しそう
- うんめえ うまい、おいしい
- おつけ みそ汁

- おっしやん 和尚さん
- おっぺす 押す、たたく
- おとつい おととい、一昨日
- おしこくる 意地悪く押す
- がしようき 乱暴
- かんぺえ クワガタムシ
- かんます かきまぜる
- きびしょ 急須
- けえどり 川を堰き止め水をかい出して行く魚取り
- けんむ(し) 毛虫
- こさえる つくる
- ごんぼ ごぼう
- じゃんぼん 葬式
- じゆくを言う 生意気なことを言う
- じゆくをする 余計なことをする
- じんばら はらわた、内臓
- ぜね 銭、お金
- ちつとんべえ 少し
- ちやどつぺ お茶請け、お茶を飲むとき
- ちよちよら きに食べる菓子や漬け物
- ちんぶくせえ おつちよこちよい
- つとす 小さい、細かい
- つとす 突き刺す
- つっぺる 川や池に落ちる
- でんぼ うそ

- でんげる ころぶ
- どつくむ 飲み込む
- とっこ 蟻地獄、アリジゴク
- どどめ 桑の実
- なっから すごく
- にぼ(う)と ほうとう おっ切りこみ
- ののひろ 野蒜 ノビル
- のんの 仏さま
- びしよったねえ だらしがらない
- ひっちらかす 乱雑に散らかす
- ひっちやぶく 無造作に破る
- ひっぺがす 無造作にはがす
- ぶつ うつ、たたく
- ふんごくる 踏む、蹴飛ばす
- へつぷりむし カメムシ
- ぼっこす 打ち壊す
- ぼつとがすると もしかすると
- むぐす くすぐる
- めけご ものもらい
- めめず みみず
- めんこ うどん
- もしき 薪、たきぎ
- もぞつこと くだらないこと
- やぶし 家の解体
- ゆだる のぼせる
- ゆんべ 昨夜、ゆうべ